

## NUMO「地層処分に係る社会的側面に関する研究支援事業」について（意見）

令和元年 11 月 29 日

放射性廃棄物ワーキンググループ委員

東京電機大学 寿楽 浩太

NUMO が実施している標記事業に関して、添付の参考資料の通り、支援を受けて研究を行った研究者から当該事業の学術性や公正性に係る問題点の指摘があり、今後、当該事業には関与しない旨の意思表示がありました。

当該の研究は複数の研究者との共同研究であり、多くの一般市民が市民パネルの一員として討議に参加する内容でしたが、当該の研究者からは研究に関係したそうした方々全員に対して、添付の文書の内容が電子メールにて回覧されています。

放射性廃棄物処分の社会的な側面について、人文・社会科学の見地から学術的な研究を行い、その成果を関連する政策・事業の改善や社会のステークホルダーとの対話、さらには放射性廃棄物処分のあり方そのものについての社会的議論に活かすことの必要性・重要性については、本ワーキンググループでも繰り返し指摘がなされており、関連する研究の推進は、平成 27 年 5 月に閣議決定された「特定放射性廃棄物の最終処分に係る基本方針」においても明記されているところです。

当該事業はそうした背景のもと、本来は有用な成果が得られることが大いに期待されていたものと理解していますが、その実施に関して、事業の支援を受けた研究者から、学術性や公正性について疑義が呈されたことは大変残念なことです。

NUMO においては指摘を受けた点について公正な調査を行った上で真摯に回答し、改善すべき点があれば早急に対処するとともに、当該研究者に対しても丁寧な対応を行って、説明責任を全うすることを強く希望します。

また、これは本件に関連した別の事柄についての小職の意見ですが、NUMO の Web サイトにおいて、当該事業を「お知らせ・広報活動」の中の「PR ライブラリー」に分類していることは、NUMO が当該事業を自らの主張を社会に周知する手段としか見ていない可能性を示唆します。これは上記の本来の趣旨に照らして誤解を生じかねないものであり、現状は必ずしも適切ではないと考えますので、善処を求めます。

なお、小職は当該研究において、市民会議の専門家パネルの一員として関与いたしましたが、本ワーキンググループ委員を務める立場から、利益相反の回避のため、研究プロジェクト実施者としての参加はせず、研究費の配分は受けておりません。外部協力者としての謝金の支給も辞退いたしました。また、当該支援事業に係る審査や評価にも一切関与しておらず、自らの研究への研究支援の申請も行っておりません。ただし、当該研究者とは学術研究上の協力関係があり、他省庁が所管する他の学術研究資金公募における当該研究者の応募にあたって、研究分担者として共同で申請を行っています（採否は今後通知）。以上を本件に深く関連しうる利害関係の状況として開示いたします。

## 【参考資料】

※本資料は早稲田大学大学院アジア太平洋研究科松岡俊二教授の了承を得て、同教授の見解を添付するものです。

### NUMO「地層処分に係る社会的側面に関する研究」プログラムについて

2019年10月7日

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授

松岡 俊二

2019年9月6日に、立教大学において開催された NUMO「地層処分に係る社会的側面に関する研究」プログラム（以下、NUMO 研究プログラムと表記）の成果報告会で明らかになった以下のような事実から、現在の NUMO 研究プログラムは、学術研究プログラムのあり方として問題が大きく、電力消費者＝国民に対する説明責任を十分に果たせるものにはなっていないと考えます。9月6日の成果報告会で明らかになった問題点は以下です。

1. 学術研究とは評価し難いものが、長年の原子力業界などのサポートで実施されてきた事業として今回の NUMO 研究プログラムに採択されていた。
2. 従来から原子力業界との特別な協力関係で実施されてきたと考えられる研究プロジェクトが複数あり、9月6日の成果報告会でも「NUMO さんのご協力での研究を実施しました」といった発言が何件もあり（こうした発言そのものが問題というより、研究内容が問題でしたが）、学術研究としての独立性（資金を提供している特定の業界のための研究は行わない）に疑義があるものが幾つか存在した。
3. 研究実施が実質的にほとんどされていない研究プロジェクトがあり、学術研究プログラムとしての適切な研究マネジメントやクオリティ・コントロールがなされていない。

なお、2019年4月24日に行われた中間報告会では、他の採択プロジェクトの研究報告を聞く機会はなく、9月6日の成果報告会ではじめて他の採択プロジェクトの具体的な研究内容が分かりました。また、9月6日の成果報告会も、当初は午前と午後をとおして行い、夕方は懇親会を行い、今回の NUMO 研究プログラムへの研究者の意見を聞いたり、研究者間の交流を図ると言われていたものが、最終的には午後だけの開催となり、研究者サイドから NUMO 研究プログラムのあり方へ意見を言う機会は全く設けられませんでした。

以上のようなことから、現在の NUMO 研究プログラムは学術研究プログラムのあり方として問題が大きく、電力消費者＝国民に対する説明責任を十分に果たせるものにはなっておらず、学者・研究者・大学人として、今後、NUMO 研究プログラムに関与することは適切ではないと考えます。